

ワールドカップ2011～ニュージーランド

1、日本

アレジのトライが見たい！見たい、みたいみたい！
小野沢の走りが見たい！見たい、みたいみたい！
ジャパンの勝利が見たい！見たい、みたいみたい！
ラ・ラ・ラ・見せてやれ～！



そんな気分で、ニュージーランドを訪問。

ジャパン(日本代表)の初戦は、9月10日・ノースハーバーでのフランス戦。アレジ・田中のハーフ陣とNo.8のホラニ龍コリニアシのぶちかましが冴えわたり、後半20分の時点で4点差まで迫るも、伝統国の壁に阻まれ21-47で敗戦。けれど、次への期待が持てる結果となりました。

第2戦は、9月16日・ハミルトンでのニュージーランド戦。震災で被害を受けた両国に黙祷を捧げた後キックオフ。タイトな大会日程ゆえ、主力を温存して王国に挑戦。南アフリカ大会での失点145点の大会記録には及びませんが、7-83で大敗。小野沢がトライできたのが救いかも。

第3戦は9月21日・北端ワンガレイでのトンガ戦。カーワンジャパンの本気を見せるつもりが、自慢のハーフ陣が機能せずポリネシアンパワーに圧倒され成す術なく18-31でノックアウト負け。当りがきついか、パスが通らないとか言い訳していましたが、トンガはジャパンをしっかり研究して対策を練って試合に臨んでいましたよ。



最終戦は9月27日・ネイピアでのカナダ戦。前回大会では、カプラン・レフリーの長めのインジュアリ一タイムと、大西将太郎の正確なコンバージョンキックで同点に追いついた因縁の対決。今回もカプ

ラン・レフリーが笛を吹いて、前半の10点差を守れず23-23のドロー。勝ちたい気持ちもわかりませんが、プレーの選択でキャプテンの菊谷とスタンドオフのアレジの意見が食い違い、スクラムハーフに不安な顔をさせては、ゲームになりませんぞ。

2勝以上を目標に掲げたジャパンの大会結果は、1分け3敗という結果でまだまだ世界には通用しない・・というより、確かに過去の大会以上にジャパンは実力アップしているのは間違えないと思いますが、それ以上に世界標準が上がって、置いてけぼりを食らったような状態ですかね。

日本人のスポーツ観戦の主流は、時代が移り変わっても「巨人・大鵬・卵焼き」のままで、強くないと見向きもしませんので、8年後のワールドカップ・ホスト国として、15名の屈強な外国人プレーヤーを集めて片っ端から日本国籍を与えて世界最強のチームを結成するか、関西人の魂にフィットする「負けても可愛い阪神タイガース」みたいなチームにして、虎キチ・オヤジと千林マダムを心を鷲掴みにするとか、常識では考えられないような改革をしなければ、スタジアムを満杯にできないのではないのでしょうか。



2、ワールドカップ

ジャパンを応援するのはもちろんですが、それ以上に白熱したレベルの高い試合を観戦したいし、特にラグビー発祥のイングランドにはリスペクトの念が強いし、ゴツゴツ当たるウェールズの丁寧で純朴なプレー、フランスの重量フォワード、アルゼンチンのドロップゴール、南アフリカ・WTBハバナの空飛ぶトライも見たいし、アイルランドの司令塔・オガーラとオドリスコルの現役続行なども見守りたい。当然、オールブラックスが勝ち続ける姿をリアルタイムで見ておきたいし、ラグビーファンとして頂点の大会に関わりあえるのが一つの夢であって理想ですから、日程と対戦カードを考えて、行程を組んでみました。

今回は、クライストチャーチ大地震から大幅な予定変更を伴いましたが、首都・ウエリントン開催の2試合を観戦する事にしました。同時期の他会場の試合は、パブリックビューイングやパブやホテルでチェックしていました。



3、アルゼンチンVSスコットランド(2011年9月25日)

特にライブで見たかったのは、足を払うようなタックルで抜群の防御とドロップゴールで得点を重ねるアルゼンチン絡みの試合。応援席も太鼓にホイッスル、ブブゼラなどの鳴り物を持ってラテンのノリ。縦に飛んで、横に揺れるって感じでアナーキーな声援でピッチの選手たちを鼓舞します。

対戦相手のスコットランドは紳士の象徴。事前に難癖をつけられて、協会側から伝統的管楽器のバグパイプの応援席の持ち込みを禁止されていて、これに抗議する意味でスコットランドの正装でもあるタータンチェックのスカートをついたバグパイプ楽団が隊列をなして演奏しながら、ウエリントンの中心地から会場まで行進。スコットランドサポーターが後方に続き規律あるデモ行進が形成された。



会場入り口付近には、大会スタッフが並び隊列はストップ。タータンの代表者が、バグパイプを置いて大会主催者側に抗議を述べる。後方からは、「フリーダム！」なんて抗議の叫び、演奏なしで国歌の「スコットランドの花」を合唱するサポーター。紳士ゆえ、暴動は起こりませんでした。その場

で抗議のバグパイプの演奏が延々と続きました。



試合は、大粒の雨の中、期待通りのレベルの高い攻防で、前半戦を終えて3対6。後半も緊迫した展開が続き、両者ペナルティーゴールとドロップゴールのみの点数で終了間際まで6対12。均衡を破ったのはアルゼンチン。ディフェンスの隙間を見つけてバックスのゴンザレス・アモロシーノがトライ。

コンバージョンも決めて13対12に。スタンドが縦に揺れるほどの歓声が響き渡り、スコットランド最後の猛攻に耐えてノーサイドの笛。コンテポーミのキャプテンシーがキラキラ輝くラテンの血が騒ぐ期待以上の熱戦となりました。

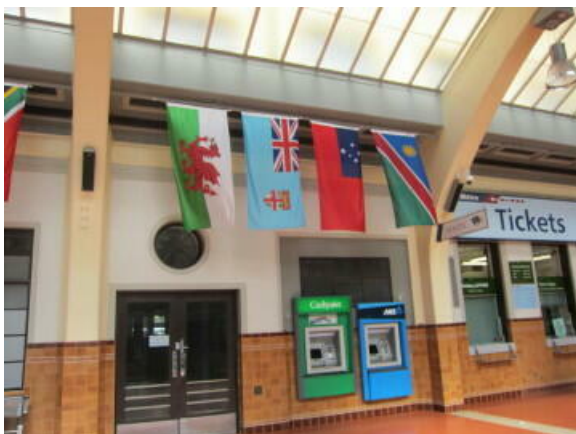


4、各国は

その他の試合を観戦して、アメリカ人はどんなスポーツでも声援は「ユー・エス・エー」の連呼で、プロレスのハルク・ホーガンと同じ扱い。イギリス系の人々は合唱が好きで、「スコ〜ットランド！スコ

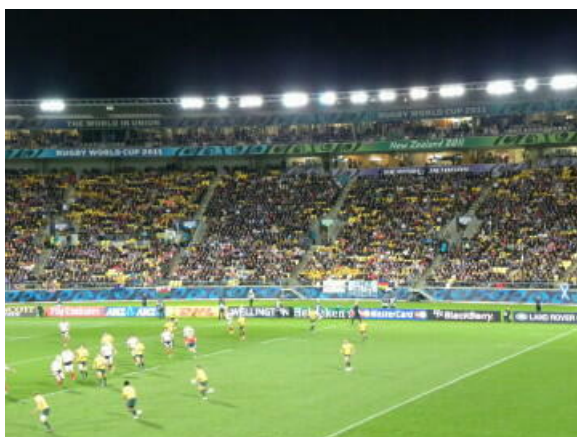
「〜〜〜ットランド！」というリズムの声援を繰り返します。

また、子供の頃から海辺でココナッツの奪い合いをしていた荒くれ男たちのイメージの強いポリネシア系のラグビーは緻密。トンガは相手チームを分析するのが上手く、日本だけでなくフランスからも金星をもぎとるほどのスキル。サモアの戦いは頭に血が上った振りして確実にショットを選択します。特に日本でも活躍するスタンドオフのトゥシ・ピシは、天才かも知れません。



また、ニュージーランド出身の各国代表がたくさん居ますが、オークランド出身のオーストラリア代表のクエイド・クーパーは嫌われています。出てきてブーイング、ボールを持てばブーイング、キック蹴る体勢に入っただけでブーイングの嵐が響き渡ります。人相悪いから・・なんて失礼なこと言う人も居ますが、今年のブレディスローカップでオールブラックスのキャプテンのリッチー・マコウに突っかかる姿が写し出されていましたね。

オークランドもウエリントンも各国サポーターで賑わい、国際色豊かな状態です。



5、オークランド

特筆すべきは、旅の最後にオークランドで出会った日本人ご夫婦。ジャパンが好きで過去のワールドカップは数試合観戦したけど、今回は定年退職したので、ジャパンの全試合を全て会場で応援したそうです。インターネットを駆使して、バスや列車で移動して23日間ニュージーランドに滞在したという夢のような旅を続けていたそうで、ホント、ラグビーファンとして理想的な生き方をしていると羨ましく思いました。私たちも年齢を重ねたら、そんな夢のような事ができるのでしょうか？

最後に、この原稿を書いている時点(2011年10月4日)での優勝チームの予想は、ズバリ・ニュージーランド。

準々決勝、準決勝と南半球とのチームに苦戦したオールブラックスは、北半球ダービーを勝ちぬいたイングランドとの決勝で底力を見せつけて大差で勝利。そんな気がします。

(平成23年10月4日記:旅は9月22日～29日)

Top
[トップ](#)
[↑](#)

Back
[戻る](#)


[ブレディスローカップ～オークランド](#)
[ド](#)